



校 訓	理想は高く 心清らかに	教 育 目 標	未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい 生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～
--------	----------------	------------------	--

## 父の背中



父親というのは、子どもが中学生ともなると何とはなしに気恥ずかしさが出てきて、それまで屈託なく接していたのが何かしら遠慮がちになってくるように思うのですが、みなさんはいかがでしょう。

しかし、中にはいつまでもオープンでぎくばらんなすばらしい親子関係を保っておられたお父さんに出会ったことがあります。それは、もうずいぶん昔のことで、私が湯前中学校に勤めていた頃です。

息子さんが湯前中の生徒でしたが、お父さんは役場に勤めておられました。子煩悩で、子どもさんのことを語られる時は自然と顔がほころんで、いかにもかわいくてたまらないという表情をしておられました。息子さんが野球部でしたので暇がある時は一緒にキャッチボールをしたり、ジョギングをしたり、山登りをしたりして親子のふれ合いを楽しんでおられたようです。風呂にも一緒に入って、今日はあぎゃんことがあった、こぎゃんことがあったと語り合うとですばいとも言うておられました。

私は湯前中を4年で転勤になったのですが、以来15年の歳月が流れ、再び、今度は新任校長として湯前中に勤務することになりました。その時、先ほど話題のお父さんは湯前町の町長になっておられたのです。誠実で、ぎくばらんで、ユーモアがあり、かつ、すばらしい政治手腕を持っておられました。町民の誰からも好かれる庶民派の名町長さんでした。ところが、誠に残念なことに道半ばにして急逝されたのです。しばらく前に胃の手術をされたとは聞いていたのですが・・・、人の命のはかなさをしみじみ思ったことでした。

葬儀の席で、一人前になられた息子さんが御礼の言葉を述べられました。その中で、お父さんとの思い出を語られたのです。「私が中学生の時、ある晩、村の公民館で飲み方がありました。遅くまで帰って来ないので心配になって迎えに行ったら、向こうから酔った父がこちらに向かって歩いてきます。『遅かったな!』と言いますと、『オー、大志か! よう迎えに来てくれた。大志、父ちゃんはお前ば背中におんぶしてみたかぞ! 来てんの!』と言って、無理矢理私を背中におんぶしたのです。そして20歩くらい歩いたでしょうか、私を背負ったまま立ち止まって、動かなくなったのです。じっと下を向いています。どうしたのかなと思って父の横顔を見ますと、泣いているのです・・・。そして、『父ちゃんうれしか・・・、お前がこぎゃん重うなって・・・、うれしゅうてたまらん・・・』と言って又涙を流すのです・・・」これを聞いて参列者の中から一斉にすすり泣きが始まりました。隣に座っていた教頭先生も私も、感動的な父と子のふれ合いを知り、思わず泣いてしまいました・・・。

子育てに難しい理屈はいりません。心底からの親の愛情さえあれば。つくづく、そう思います。教育も一緒でしょう。